

## 第3回 成田市景観まちづくり市民懇談会 会議概要

### 1 開催日時

平成24年1月30日(月) 午後1時30分～午後3時45分

### 2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 3階 第二応接室

### 3 出席者 (\*職・氏名の記載の順序及び方法は、任意です。)

(委員)

黒田委員、一色委員、山田(行)委員、大木委員代理(渡辺氏)、大澤委員、佐久間委員、伊藤委員、中山委員、鈴木委員、佐々木委員

(事務局)

都市計画課 設楽課長、後藤副主幹、會嶋主査、富澤主査、塚本主査  
(コンサルタント)

株式会社LAU公共施設研究所 吉岡部長、牧野主任、仁司技師

### 4 概要

「前回の意見の確認」、「景観計画骨子案(目的と位置づけ、景観形成に関する方針)」について事務局より説明を行ったのち、質疑応答を行う。

その後、ワークショップで各班(3班)において「大切にしたい成田の眺望」、「景観づくりの推進のための取り組み」の意見出し及び意見交換を行い、各班代表者発表を行った。

以下、意見交換された主な質疑応答内容

#### ①資料検討の分割について

委員 A これだけたくさんものを1時間30分では終わらないと思うので、半分ずつにして次回にしたらどうか。そうしないと、より良い議論ができないと思うがどうか。

事務局 資料3が大きく2つに分かれる。考え方としては、5ページまでが基本的な基本方針の内容になり、6,7ページの考え方も合わせて意見頂ければと思う。今年やってきた成果ということで意見を伺いたい。

そこから先はまだまだこれから詳しく時間をかけてやっていきたいと考えている。

座長 時間の関係で2つに分けたらどうかと、それから事務局からの案で景観計画の基本目標と基本方針がこの7ページまでですので、その辺について検討をするという意見が出ているが、それでよいか。(はい。)では、そのようにしたい。

委員 B 次回以降になってしまうかもしれないが、9ページ以降の基準に関し

て、景観ゾーンの区割りで、駅前から参道にかけては商業地景観ゾーンになる。その制限のところでは駅前から参道にかけての部分に関してもう少し、拡大して細かな線引きをした方がよいのではないかと。同じ商業でも、駅前を歴史的な部分の保全の対象にするのか、しないのかで、ルールが変わってくると思う。次回以降に議論になるのであれば、もう少しゾーンの区割りを、重要な部分だけは細分化した方がより有益な議論が進められるのではないかと。

座長 議事録に留めておいてほしい。

## ②「田園の景観」、「空から見た成田の景観」、「看板の統一」について

委員 C 基本方針の中の田園と水辺が織りなす豊かな景観づくりの中の、安らぎのある田園の中の里山などの表現が何か極めて抽象的であると思うので、もう少し具体的なものも含めて記載ができないか。特に谷津田とその横に形成される斜面林の景観は成田だけでなく、大栄や下総も含めて考えた時に少し記載が弱いのではないかと。

3番の世界とつながる成田の関係であるが、平面的なものとしての記載があると思うが、むしろ空港に着陸していく飛行機から見たときの成田の景観、空から見た景観が、世界とつながる成田を訪れる人をもてなす景観づくりの中で、もう少し記載があるといいのかなと思う。

逆に騒音下の地域への振興や空洞化をどう考えていくかということについても必要であろう。

それと、全体につながることもかもしれないが、農村地域では看板が非常に多い。市でつくった歴史的な建造物や中世のお城跡などの案内看板があるが、この維持管理も含めて、あるいは看板の統一というのも景観の中で必要ではないかと思う。

座長 空から見た成田の景色は、成田の地域特性に十分に当てはまる良い提案だと思う。看板等についても、整備をされ統一されたらいいものになると思う。事務局で検討してほしい。

## ③駅前再開発(方針への高層建築物に関わる内容の謳い込み)について

委員 A 一番はじめにワーキンググループで3班に分かれて、成田の駅前再開発に関して大分厳しい意見が出たと思う。3番目の基本方針で世界とつながるNARITAを訪れる人をもてなす景観づくりで簡単にされてしまっている。この前、景観セミナーで堀先生は、人々が視線を10～20度くらいでいくのが一番景観として良いというお話をされていたが、高層マンションは景観にそぐわないと思う。それではだめだということをして是非とも入れて欲しい。これは意見である。そのことは1回目、2回目のワーキンググループの時に各班の人が言ったと思うが、それがまったく集約されていない。是非とも成田の守る景観という部分で、

是非そういった高層のものは入れないということを謳ってほしい。

委員 C それは、この基本方針のことではないと思う。高層はいらぬというのは異論があると思う。これだけの建蔽率、容積率を与えられた地区なので、基本的には地権者なり土地利用に則した使い方になる。表現の問題はあるかとは思いますが、それを方針の中に記載するというのはいかがでしょうかと思う。

座長 確かに基本方針や基本目標であるので、踏み込んだ具体的な表現と言うのはちょっとそぐわないところはあると思う。

他にご意見があればどうぞ。

委員 D 駅前再開発のことであるが、この懇談会というのは駅前開発に反対であるとか反対でないとかそういう会議ではないと思う。それはこの場で協議する話ではないと思う。

委員 A 協議ということではなくて、景観を損なうようなものはやめよう、それを方針として入れてほしいということである。例えば、駅前広場は新しい図面を見ると、ほとんどバスターミナルとタクシー乗り場である。広場も何もない。それは景観からはまったくそぐわないということである。平面的に見てもおかしい。それは方針ということではなくて、具体的な中でもよいが、そういうものは景観としてもまずいと一本筋を通してほしい。

座長 先日の景観セミナーで、堀先生は、景観というのは、人が居住していたり、住んでいた、あるいは生活を営む世界の中に生まれるものである。例えば、道路から山の方を見たら、途中で何かあったら山が見えないから途中の家はつぶしてしまえというわけにはいかない。

要するに景観は人の営みの中にあるものなので、ビル一つとっても、生きていくために必要なものを除外してしまえとそういうような強硬な意見というのは景観の中で用いられないような話をされた。そのようなことも少し考えていった方がよいのではないかと思う。

委員 D 駅前広場のバスターミナルとタクシー乗り場は、観光客を呼ぶに当たって必要である。それに対して景観だといって、あまり規制するのは反対である。景観のために実際に人間が暮らしていく生活の場所を規制するのはあまりよくないと思う。実際に先ほどいわれたポイントから見て、駅ビルができて、新勝寺の景観が損なわれるとは思わない。だからこの景観に入れてどうのこうのという話ではないと思うので、基本方針に入れる必要はないと思う。

委員 A 成田は観光のまちでもある。人々が成田山を目指して訪れるといった場合に、駅を降りて地方都市と一緒にではないかとなると、リピーターとして次回から来てもらえなくなってしまう。成田は成田らしい駅前が必要で、それにはやはり景観だと思う。その方針としてきちんと筋を通しておかないと、だんだん住む人だけのまちになってしまう。

成田は空港があり、年間 3000 万の人成田市を訪れるということによって成田の経済も潤うので、そこを考えないといけないと思う。

委員 D 例え、駅を見ての景観なのか、駅を降りた人の景観なのかで全然違うと思う。例えば高いものが建ったからだめだとかではなくて、当然人を呼ぶにはそれだけの場所があって、ある程度施設がなければだめだと思う。ただ昔ながらのままでは人も呼べない。実際住んでいて駅前が狭いとどうしようもないとも思う。

委員 A 反対しているわけではないが、もっと整然としたものがないのではと思う。例えば千葉市では、臨海部が 30m、駅から山側の方が 20m というように高度地区の指定が議論されている。千葉市という県庁所在地であっても高さを抑えようとしているのであれば、千葉市よりも人口が少ない成田では景観ということで高さを抑えた方が良く思う。

コンサルタント いずれにしても、駅前については、色々な議論がある事は承知している。それを決めつけて、この方針にこうだということは書き込めないと思う。

景観としては、今の枠組みの中でつくられるが、そのつくり方をどうするのかということになる。その中で賑わいや歴史を感じさせる街並みづくりなど、謳い方としてはそのようになる。本当に高さがだめだということであれば、都市計画の手法なり使ってそういう規制をしていく必要がある。今そのことをこの方針に盛り込むことは難しいと思う。

委員 C あちらこちらで問題になっている色の問題であるとか、富士山が見えなくなるだとか、眺望権の問題などは、環境に対しての問題であるが、この基本方針は理念である。それを一つの方向でやらないと、個別具体的なことだけで善し悪しを議論してはいつまで経ってもできないと思う。理念についてここで議論を重ねるということ考えてもらえばよいのではないか。

座長 確かにこの市民懇談会で皆さんに意見を出して頂いて、審議会に意見を求めるわけである。そちらが決め事の重要パートだと思う。そちらに意見普請するに当たっては、そういう意見もあつたけれども今話している目標であるとか方針については、具体的な例ではなく、抽象的な形で決めていくというスタイルでいいと思う。

#### ④方針の表現について

委員 A 方針というのは抽象的なことをいっても仕方ないと思う。

座長 具体的なことをなかなか方針に入れられないと思う。そういうものだと思う。

委員 D ある程度方向性をこの会議で示して、細部についてはこの上の会議があるので、そこでチェックしてもらい、盛り込むか盛り込まないかではないと思う。

委員 A 細部は末端のこの会議がやることであって、上の会議では大まかなことを決めるのではないか。区長がいて、公募の委員がいるというのは末端ではないか。

座 長 末端が決めたのなら、意見がものすごく大きい提言になってしまっ  
て決めかねると思う。

委員 A そういう議論があってもよいと思う。

座 長 代表者が、集まって決めるわけなので。

委員 D ここは、土台をつくる場所である。

委員 A 色々な議論があってもいいことだと思う。

座 長 異論はあってもいいと思うし、議論はいいと思う。ただ決めていくに  
当たっては、広く成田市民が全部の人が意見を出したらまとまらない  
わけですから、だから淘汰していくような形を会議の中でつくっている  
のではないか。

委員 A 筋は通さないといけないということである。

座 長 前から一貫して駅前の問題についてお話されているので、よく分か  
ります。

座 長 それでは先ほどの、7 ページまで  
話を審議会に報告するというこ  
とでよいか。意見がなければ予定通り  
ワークショップに入りたい。



#### ワークショップ集約一覧表

#### 【第1班】

項目	具体的取り組み・アイデア
<b>■ 景観づくりの推進のための取組み</b>	
市民による成田らしい景観資源の活用（掘り起こし）について	<ul style="list-style-type: none"><li>● 空からの成田らしい景観づくり</li><li>● 広報を活用し、市民へ公募してはどうか。</li><li>● コンクール形式にすると応募される</li><li>● 写真コンクール</li><li>● 風景コンテスト（任意）を行い、しばってHPで公開する。</li><li>● 市民へ「橋」や「桜」などのカテゴリー分けして（掘り起こし）を行う。</li><li>● 写真コンクール</li></ul>
景観形成に関する意識づくりについて	<ul style="list-style-type: none"><li>● 学校のカリキュラムにする</li><li>● 公民館で話をするなど、子供達に教えていく。</li><li>● 自分で（花を）植えるなど、自分でつくったもので意識づけさせるしくみづくりを行う。</li><li>● 子供達が画いた絵など、しっかりつくられたものやきちんと管理されている所は荒らされない。</li></ul>

市民が主体となった地域の景観づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を支えるしくみづくり</li> <li>桜の木が何本あるかの調査を考えてはどうか。</li> <li>特徴をつくっていく。</li> <li>桜の木が多いので、特徴として活かす。</li> <li>桜を年月をかけて名物にする。</li> </ul>
推進体制や仕組みについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の世代に残すために。</li> <li>次世代への長期的な規制。</li> <li>規制に対して、市民の名のもとに逃げてはいけない。</li> <li>メンテナンスが課題である</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政看板の管理を何とかしたい。</li> <li>産廃捨て場にならないようにする。</li> <li>緑のカーテン</li> </ul>

■大切にしたい成田の特徴的な景観


- スカイツリーの見える場所を調査している人がいる
- 成田スカイアクセスから花火大会への眺望（臨時列車の増便を）
- 利根川の堤防からの眺望
- 印旛沼周辺に建物を建てないようにして景観を守る
- 空から観た眺め（コンタ上に桜を植えてはどうか。）
- 橋の統一性や橋からの眺望
- ガードレールの色で景観がよくなる
- 寺社や城跡は斜面林と一緒に残す
- 筑波山への眺望
- 富士見橋からの富士山への眺望（今は見えないか）
- 鉄道からの景観、現状維持したい
- 松崎など、昔の写真をさがすと見えたものがわかる



【第2班】

項目	具体的取り組み・アイデア
<b>■景観づくりの推進のための取組み</b>	
市民による成田らしい景観資源の活用（掘り起こし）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>市広報で募集をする。</li> <li>区長制度を活用し、3 役程度に出てきてもらい、皆で検討する。（今の組織で細分化する。）</li> <li>説明会を活用する。地区のやり方に従う（市で説明）</li> <li>区民と直接対話する機会をもつ。</li> </ul>
景観形成に関する意識づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観に関するニュースレターを作成し、広報などで流す。</li> </ul>
市民が主体となった地域の景観づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局で先進事例を調査し、良いものは取り入れる。</li> </ul>
推進体制や仕組みについて	
その他	
<b>■大切にしたい成田の特徴的な景観</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>松崎の浅間台からの富士山やスカイツリーへの眺望</li> </ul>	

【第3班】

項目	具体的取り組み・アイデア
<p>■ 景観づくりの推進のための取組み</p>	
<p>市民による成田らしい景観資源の活用（掘り起こし）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西三里塚の浅間神社北側の道路より、成田空港への着陸機への眺望が良好（特に、厚い雲の時、その下にランディングする光景が良い）。</li> </ul>
<p>景観形成に関する意識づくりについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>印旛沼クリーンハイキングのように実際に人が歩いて見ることが大事であり、そうすると景観についても考えてもらいやすい。</li> <li>ホームページも大事ですが、それを見られない人もいるので「広報なりた」を活用して欲しい。</li> <li>景観行政団体になった事を知らない人もいるので広報する。</li> <li>学校教育に景観の意識づくりを取り入れてもらう。</li> <li>景観写真コンテスト等を開催する。</li> </ul>
<p>市民が主体となった地域の景観づくりについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市で景観の日をつくって、全市的にイベントを行う（まずは景観に対する参加の機会づくりが重要で、地域活動の参加も難しい新住民も少なくない）。</li> <li>地域の事は地域で考える。</li> </ul>
<p>推進体制や仕組みについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観団体を市民で設立して、市で補助金を出す。</li> <li>行政と市民の仲立ちを行う地元のNPO「景観まちづくり委員会」を設ける。</li> <li>運営資金は、企業のCSR（企業の社会的責任）を活用する。</li> </ul> 
<p>その他</p>	<p>—</p>
<p>■ 大切にしたい成田の特徴的な景観</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東和田の区民館南側の市境付近道路より、新勝寺の平和大塔が見通せる。</li> </ul>	

以上